

中小企業地域資源  
活用促進法に基づく



**ふるさと名物**  
Furusato Meibutsu

わが市町村の  
ふるさと名物は  
これ!



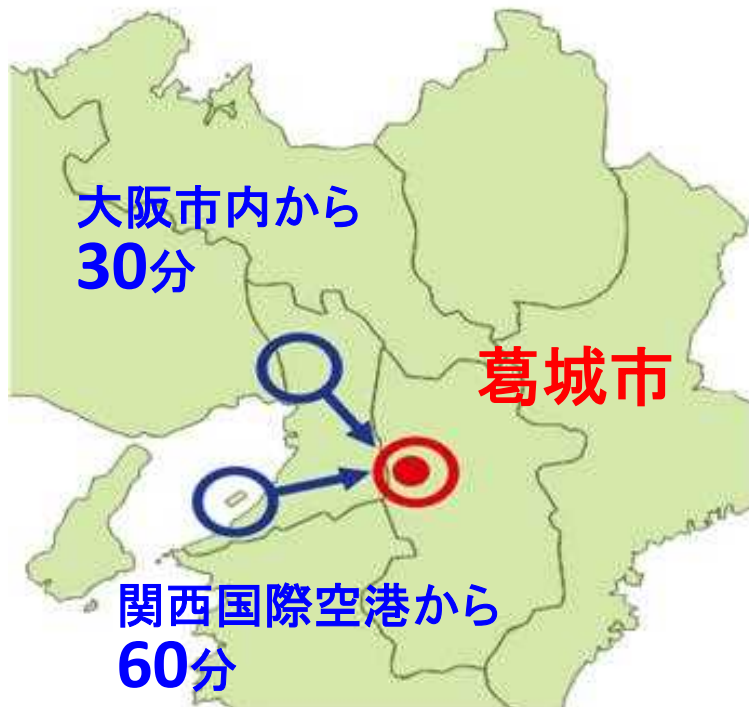
**奈良県葛城市**  
が応援するふるさと名物

機能性を重視した  
ファッション製品



## 奈良県葛城市

地域の  
プロフィール



### 沿革

- ・2004年(平成16年)10月1日に新庄町と當麻町が合併し誕生
- ・県内12の市のうち、11番目に生まれた市

### 基本情報

- ・面積: 33.73平方キロメートル
- ・人口: 約37,441人(平成31年1月1日)  
(平成16年合併時: 約35,500人)

### まちの魅力

- ・国宝「當麻曼荼羅」をはじめ国宝、重要文化財の数は44
- ・国最古の官道である竹内街道  
(日本遺産に認定)
- ・現在も人口が増加、人口構成で15歳未満の人口が増加している県内唯一のまち

## 1 主な地域資源

### ◆織物 ◆染色

江戸時代、田畑転換として綿栽培が定着しました。その後、生産だけでなく加工にも発展し、安政4年新庄組綿織物の生産高には、織屋（織物）が数多く存在し産業として形成されていくことが記載されています。

その後、加工が発展し大和かすりに代表される紺かすりの染色技術が確立されていきました。

近年、織物は消費者の細かなニーズに合わせた製品づくりを行っています。染色は、天然素材だけではなく化学繊維にも利用されるものなど時代の変化に対応しています。

第21表 安政4年 新庄組の綿織物産額

人 名	数 匁	金 額
綿屋 伊兵衛	4,650	121.365
御所屋 喜右衛門	540	4.80
笠木屋 平兵衛	717	6.650
籠屋 政右衛門	450	1.150
綿屋 小右衛門	2,000	51.600
菊屋 新右衛門	360	9.645
嶋屋 久治郎	400	11.
米屋 久七	360	9.900
嶋屋 ふみ	572	17.469
古手屋 平太郎	400	10.40
道穂村南方 林助	2,112	51.939
道穂村北方 直七	3,680	88.320
舟之庄村 平八	408	1.241
中戸村 金兵衛	480	12.720

(注)「今般産物類御取調ニ附書上帳」(新庄・角尾吉高文書)から作成。



安政4年新庄組綿織物の生産高

# 1

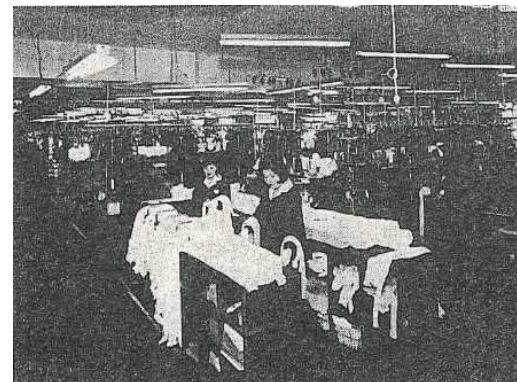
主な地域資源

## ◆靴下

明治時代、靴下製造機械が近隣町に導入されると、本市におきましても農業の副業として定着しました。

昭和40年代には、日本経済の高度成長に伴い製造量が増加し、家内工業から靴下製造工場に変化を遂げて市の基幹産業として産地が形成されていきました。

現在は、大量生産から選ばれる商品を目指し機能性を高めた製品づくりに力を入れています。



昭和20年代の靴下工場



現在の商品

## 1

### 主な地域資源

- ◆衣料縫製品
- ◆刺繍
- ◆編レース
- ◆軽装履
- ◆ニット
- ◆合成樹脂ボタン
- ◆サンダル
- ◆スポーツシューズ

靴下については、順調な発展を続けていましたが、特にオイルショックやバブル崩壊の時期に、衣料縫製品、刺繍、編レース、ニット、染色、合成樹脂ボタン、サンダル、軽装履、スポーツシューズに業種を転換された業者が増えました。そのことで、多様なファッション関連の産地として形成されました。

それぞれ、機能性を重視しておりニッチ産業として欠かせない存在となっています。



昭和40年代の衣装縫製品工場

## 2 ふるさと名物

### ◆機能性を重視したファッション製品

葛城市には、様々な機能性を重視したファッション製品があります。江戸時代から続く織物産地が、時代の変化とともに靴下、衣料縫製品、刺繍、編レース、ニット、染色、合成樹脂ボタン、サンダル、軽装履、スポーツシューズなど多様化してきました。

それぞれの製品は、機能性が高くOEM中心に発展を遂げておりますが、近年はオリジナルブランドでの販売も始まり、市場での評価も高まっております。



ニット



染色



刺繍



衣料縫製品

# 葛城市の取り組み

# 1

## 独自の支援策

- ◆販売促進事業  
商工業者や市商工会等と連携し、イベント等で「ファッション商品」の啓発と販売に努めています。  
そのため、各種展示会への出展に対し支援を行います。

# 2

## 広報・ タイアップ

- ◆広報事業  
機能性の高さを周知するため葛城市や葛城市商工会の広報誌・ホームページで情報発信を実施していきます。  
また、市内外での観光イベントでPR活動を行うなど地域資源のブランド化に努めます。



展示会の様子



葛城市商工会員紹介ホームページ  
スクリーンショット

# 市長からのメッセージ



葛城市長 阿古和彦

葛城市には、織物にまつわる伝承が残されています。

国宝「當麻曼荼羅」は、中将姫が當麻寺(當麻)に入って尼となり、ここで蓮糸を使い一夜で織ったと伝わり、その蓮糸を浸したのが石光寺(染野)の「染の井」で、その蓮糸を掛けたのが「糸掛け桜」と言われています。

また、天照大神の荒衣和衣の御衣を織り、天孫降臨の時、御衣織として共に降臨、機織りの術を授けられた神である天羽雷命を祭神とする葛下郡式内社十八座のうちの一つ「葛木倭文坐天羽雷命神社」(加守)が鎮座しており、七夕発祥の地とも言われています。

戦国時代に伝来した木綿は、本市の基幹産業として発展をとげてきました。松尾芭蕉は、竹内街道(竹内)で「わた弓や琵琶になぐさむ竹のおく」と、綿を打ち繊維を柔らかくして糸に加工しやすくする道具の音が琵琶に似ていることを詠んでいます。

戦後、木綿の生産や染物が、靴下、織物、衣料縫製品、刺繍、編レース、ニット、染色、合成樹脂ボタン、サンダル、軽装履、スポーツシューズなど多様化して現在に至っております。

ドイツの小説家ゲーテの言葉に、「涙とともにパンを食べた者でなければ、人生の本当の味はわからない」というものがあります。本市の機能性を重視したファッション商品は、パンを置き換えたものだと考えます。先人が泣くほど苦労した商品であり、現在も汗を流しながら職人が作っており、本当の価値を伝えるために本宣言をさせていただきます。